

## 「未来をひらく窓—Gaudí Meets 3D Printing」

### 【本展クリエイタープロフィール】

#### ■鈴木 啓太 (PRODUCT DESIGN CENTER)

プロダクトデザイナー、クリエイティブディレクター。1982 年生まれ。多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒業。PRODUCT DESIGN CENTER 代表。古美術収集家の祖父の影響で、幼少より人が織りなす文化や歴史に興味を持つ。森林活用から都市環境、伝統工芸から 3D プリンティングなどのアディティブ・マニュファクチャリングまで、幅広い分野に精通。美意識と機能性を融合させたデザインで、国内外でプランニングからエンジニアリングまでを手掛ける。2008 年「TOKYO MIDTOWN AWARD」受賞、2016 年「HUBLOT DESIGN PRIZE」初のアジア人ファイナリスト、2018 年初個展「鈴木啓太の線：LINE by Keita Suzuki」を柳宗理記念デザイン研究所で開催、2019 年「相模鉄道 20000 系」が「ローレル賞 2019」受賞、2020 年「ELLE DECOR Young Japanese Design Talent」受賞等。2015-2017 年グッドデザイン賞 最年少審査委員。



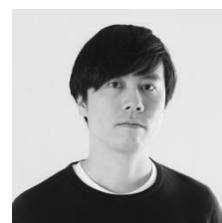
#### <クリエイティブディレクター鈴木氏によるメッセージ>

「僕にとってガウディの窓とは、音、風、そして光。初めてバルセロナで彼の建築を見た時、あの自由な造形がいかに現地の自然環境や人々の生活に馴染んでいるか、とても驚きワクワクしたのを覚えています。本プロジェクトの話を頂き一番に考えたのも、ただ面白い形の窓を作るのではなく、いかに窓が私たちの豊かな生活に貢献できるかという視点でした。暮らしに結びついてこそ、窓の可能性は開かれると思ったのです。

3D プリントという技術を手にした今、プロダクトの歴史は大きく変わっていくでしょう。近代化の名のもとに失われてしまった、ガウディ建築に代表される職人たちの手仕事や、人や空間にあわせたカスタマイゼーション。最新技術によりそれらが再び脚光を浴び、さらに持続可能性などの問題を解消しながらこれからの暮らしに貢献できると確信しています。最先端の研究を行う他業種の企業やイノベーターとの対話を通して作られる、私たちの生活を支え、彩り、豊かにする窓の未来にご期待ください。」

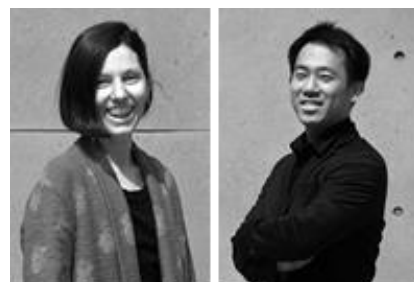
#### ■村上 雅士 (emuni)

アートディレクター・グラフィックデザイナー。1982 年生まれ。東京藝術大学大学院修了。emuni 代表。グラフィックを基軸にブランディングなどのデザインを手掛ける。タイポグラフィを主体としたアートワークによる展覧会なども精力的に行う。主な仕事にキリンレモンブランディング、東京芸術祭アートディレクション。「東京 TDC 賞」、「JAGDA 新人賞」、「NY ADC 賞」、「ONE SHOW」、「D&AD 賞」など国内外で受賞多数。東京藝術大学非常勤講師。



#### ■山村 健+ナタリア・サンツ・ラヴィーニャ (YSLA Architects)

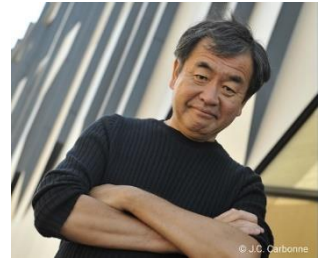
YSLA Architects 共同主宰。住宅、別荘、ホテルなどの設計や、空間体験を重視した展覧会の空間設計を手がける。DESIGNART TOKYO 2019 「Garden of Eden」で「Big Emotions Award」受賞。【山村健】建築家・博士（建築学）。1984 年生まれ。早稲田大学創造理工学研究科建築学専攻博士後期課程修了。東京工芸大学准教授。日本建築学会奨励賞受賞等。【ナタリア・サンツ・ラヴィーニャ】建築家。1982 年生まれ。バルセロナ建築大学修了。中央大学理工学部非常勤講師「環境デザイン」担当。



## 【建築家インタビュー出演者プロフィール】

### ■隈 研吾（隈研吾建築都市設計事務所）

建築家。1954 年生まれ。1964 年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事。大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990 年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで 20 か国を越す国々で建築を設計し、国内外で様々な賞を受けている。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。



### ■藤本 壮介（藤本壮介建築設計事務所）

建築家。1971 年生まれ。東京大学工学部卒業後、2000 年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014 年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞、2015、2017、2018 年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。2019 年津田塾大学小平キャンパスマスタープラン策定業務のマスターアーキテクトに選定、2021 年大分空港海上アクセス旅客ターミナル建設工事基本・実施設計業務最優秀者に選定。2025 日本国際博覧会の協会事務局会場デザインプロデューサーに就任している。



### ■アストリッド・クライン+マーク・ダイサム（クライン ダイサム アーキテツク）

1991 年設立の建築、インテリア、公共スペース、インスタレーションなど複数分野のデザインを手掛けるマルチリンガルオフィス、クライン ダイサム アーキテツク (KDa) 共同主宰。2 人によって考案された「PechaKucha」は、デザイナーやクリエイターが互いに創造性を共有するプレゼンテーションの場として世界各国に広がり、現在では約 1,200 の都市で開催される世界的なイベントへと成長している。代表作に、代官山 T-SITE / 蔦屋書店 (2011) や、GINZA PLACE (2016) 、Open House (バンコク, 2017) など。



### ■秋吉 浩気（VUILD）

アーキテクト・メタアーキテクト 1988 年生まれ。芝浦工業大学工学部建築学科を卒業後、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 X-DESIGN 領域にてデジタルファブリケーションを専攻。2017 年にデジタルテクノロジーによって「建築の民主化」を目指す建築テック系スタートアップ VUILD 株式会社を創業。主な受賞歴：SD レビュー入選 (2018) 、SD レビュー入選 (2019) 、Under 35 Architects exhibition Gold Medal 賞 (2019) 、2020 年〈まれびとの家〉でグッドデザイン金賞。



### ■大西 麻貴（o+h）

建築家。1983 年生まれ。京都大学工学部卒業後、東京大学大学院修士課程修了。2008 年より大西麻貴 + 百田有希 / o+h 共同主宰。主な受賞歴：SD レビュー鹿島賞 (2007) 、新建築賞 (2012) 、SD レビュー朝倉賞 (2012) 、グッドデザイン賞 ベスト 100 受賞 (2017) 、日本建築設計学会賞大賞 (2018) 、JIA 新人賞 (2018) 、日本建築学会作品選奨・新人賞 (2019) 。2016 年より京都大学非常勤講師、2017 年より横浜国立大学大学院 YGSA 客員准教授。

